

平成31年3月27日発行

～講演会を開催しました～

平成30年度浜松市ひきこもり地域支援センター啓発事業

「ひきこもる」その心を理解する

3月8日（金）浜北文化センターで講演会が開催されました

E-JANの事業のひとつである『ひきこもりサポートセンターこだま』は、浜松市精神保健福祉センターと官民協働で『浜松市ひきこもり地域支援センター』として活動をしています。

ひきこもりについて誰かに相談したくてもできずにいる家族や、様々な理由で家庭にとどまっている当事者は少なくありません。地域の身近な住民が、ひきこもる当事者の心理を理解し支援体制について知ることは、当事者家族の負担を軽くすることや、適切な時期に支援機関へつながることに役立ちます。今回は、ひきこもりについて地域ができることを考える機会とするため、このような講演会を開催させていただきました。



写真：会場が埋まるほどご来場いただきました

当日は民生委員や医療・福祉機関、当事者、家族など、予定人数を上回るたくさんの方にご来場いただきました。

精神保健福祉センター所長の二宮貴至先生からは、ひきこもりの原因は一つではなくいろいろな要因が絡み合っていること、当事者の安心できる居場所をつくることの大切さなど、ひきこもりの心理や回復のために必要なことについてお話をいただきました。ひきこもり地域支援センター職員と、社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーの永井紀子さんからは、『浜松市のひきこもり支援や地域の取り組み』について、相談したい場合の流れや、訪問支援・当事者グループの活用について紹介があり、どのように相談につなげていくのかを知る機会となりました。

この講演会をきっかけに、相談できず悩んでいる方に地域からできることが少しでも増え、住みやすい地域に近づいていけばと思っています。お忙しい中、足を運んでいただき誠にありがとうございました。

来場された方の感想

- 相談を続けることが大事なのだと分かりました。親と子の別々の相談が必要であることも分かりました。
- 様々な機関で連携していて良いと思った。「ひきこもり」の本人や家族に対して周りの理解が必要だと思った。
- 浜松市はひきこもり支援体制が整っていることがよく分かりました。地域にひきこもりのことで悩んでいる方がいたら、いろいろな支援が受けられることを伝えたいと思います。
- 対応方法についてよくわかった。相談できる場があることを知り、活用していこうと思う。



浜松市自殺対策における多職種連携支援業務 (絆プロジェクト)について



日本の自殺対策の取り組み

日本の自殺者数は、昭和 58 年、61 年に 2 万 5 千人を超えたものの、その後、2 万人台前半で推移していました。しかし、バブル崩壊以降、多くの企業の倒産や銀行の経営破綻などで、社会全体が不安定な状況に突入し、平成 10 年以降、自殺者数は 3 万人を超えるようになりました。平成 15 年には統計を取り始めた昭和 53 年以降で最多の 34,427 人となりました。



それまでは、自殺問題が行政上の課題とされることは少なく、うつ病対策や、職場のメンタルヘルス対策を中心に、各省庁がそれぞれに実施しているのが実態でした。そのような状況の下、自殺者の遺族や自殺予防活動、遺族支援に取り組んでいる民間団体から、「個人だけでなく社会を対象とした自殺対策を実施すべき」との声が上がり、平成 18 年に自殺対策基本法が制定されました。平成 19 年には初めて自殺総合対策大綱が策定され、以後、政府の推進すべき自殺対策の指針として、5 年ごとに見直されています。

そこから国や地方自治体が本格的に様々な取り組みを進めていく中で、平成 22 年以降は減少を続けており、平成 24 年に 15 年ぶりに 3 万人を下回り、以後、平成 29 年まで 6 年連続で減少が続き、平成 29 年は 21,321 人となっています。

平成 28 年には自殺対策基本法が改正され、平成 29 年 7 月に「自殺総合対策大綱」が閣議決定されました。その中では、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」を基本理念とし、基本認識として、自殺はその多くが追い込まれた末の死であること、年間自殺者数は減少傾向にあるが、非常事態はまだまだ続いていること、地域レベルの実践的な取組を PDCA サイクルを通じて推進することとなっています。

その当面の重点施策として、「地域レベルの実践的な取組の更なる推進」「若者の自殺対策、勤務問題による自殺対策の更なる推進」などが掲げられ、数値目標として自殺死亡率を先進諸国の現在の水準まで減少することを目指し、平成 38 年までに平成 27 年比 30% 以上減少させることを目標とする(平成 27 年 18.5 ⇒ 13.0 以下)と掲げられました。※自殺死亡率の参考:アメリカ 13.4(2014)、ドイツ 12.6(2014)、イギリス 7.5(2013)



浜松市自殺対策における多職種連携支援業務（絆プロジェクト）

浜松市の自殺対策においては、平成 21 年 3 月に浜松市自殺対策推進計画が策定され、浜松市全体の様々な取り組みの中の 1 つとして、経済問題を抱える自殺のハイリスク者に対して関連が深い司法書士、弁護士と精神保健医療福祉の専門職である精神保健福祉士との連携を構築するとともに、自殺を防ぐための多職種間のセーフティネットの検討を行い、「支援者同士の顔の見える関係づくり」「多職種が連携したハイリスク者の支援」を通して浜松市の自殺者の減少を目指す、浜松市自殺対策地域連携プロジェクト「絆プロジェクト」が平成 22 年度から始まりました。

平成 26 年には第二次浜松市自殺対策推進計画(期間:平成 26 年～30 年)が策定され、基本理念が「孤立を防ぐ ～ひとりじゃないよ、大丈夫～」とされ、重点施策として

- (1) 包括的な生きる支援の充実
- (2) 若年層への対策の充実
- (3) より多くの関係者によるセーフティネットの強化 となりました。



絆プロジェクトでは、「支援者同士の顔の見える関係づくり」「多職種が連携したハイリスク者の支援」を進める中で、司法書士・弁護士と精神保健福祉士との連携をさらに広げていくことが重要と考え、多職種、他分野、行政間の連携の推進を目指す事業へと展開するようになりました。

平成 29 年度からは**浜松市自殺対策における多職種連携支援業務（絆プロジェクト）**と名称を変え、学生、社会人を対象とした研修会と、浜松市職員向けの研修会を行うことが新たに加わり、自殺の予防や危機の早期発見（ゲートキーパー）の役割を地域や行政内でも意識を高めるような取り組みを始めたほか、本事業を推進するための委員には、地域包括支援センター、浜松市社会福祉協議会、浜松市障がい者基幹相談支援センターなど、他分野にも広げた取り組みを始めています。



また、平成 31 年度からは第三次自殺対策推進計画がスタートします。第三次浜松市自殺対策推進計画（平成 31～35 年度）では、第二次計画を踏まえつつ、さまざまな悩みに対応する相談支援体制、福祉・高齢者分野などとの有機的な連携、若年層・働き盛り世代への対策、多職種連携によるセーフティネットの強化を図り、浜松市の自殺対策を総合的に推進していくとなっています。

平成 30 年度の事業活動の報告（一部）

第 1 回 絆プロジェクト事例報告会

「連携のさらなる高みへ！！～新時代の支援～」

3 月 9 日(土)に浜北文化センター大会議室にて、事例報告会を開催しました。

例年、これまでは法律家、福祉職との事例検討会を開催してきましたが、連携の輪を多職種・他分野へ広げるという趣旨のもと、地域包括支援センター三方原、浜松市社会福祉協議会コミュニティーソーシャルワーカー、浜松市生活自立相談支援センターつながりから、

- ・具体的に連携しながら支援している事例の報告
- ・連携についての問題提起
- ・連携して支援することの意味

について、シンポジウムを行いました。当日は全体で 90 名ほどの参加者となりました。



★ 施設見学 1月11日(金) 10:00~13:00 根洗学園

社会福祉法人ひかりの園の「根洗学園」へ見学に行ってきました。松本理事長から根洗学園の概容をうかがってから施設全体を案内していただきました。平屋造り全部屋南向き床暖房が整備されたよい環境で子供たちはのびのび活動していました。

わたしたちは各年齢の部屋へ分かれて入れていただき、子供たちとふれあいながら見学をさせていただきました。わたしが入れていただいたのは年中さん6人の部屋でした。11時から朝の会が始まるところで、子供たちはそれぞれの遊びを終わらせ、先生の読み聞かせを椅子に座って聞くところでした。朝の会ではお当番さんが給茶のお手伝いをして、子供も先生も水分補給をしていました。先生が今日一日の予定を伝えました。朝の会の後はマラソンだったので、マラソンで注意することも先生から話がありました。



根洗学園の給食室

見学を終え、会議室へ戻って再び松本理事長に話をうかがいました。その子に適した環境の提供や親御さんへの相談支援など、根洗学園の目指すところを私たちの質問に答えながら話してくださいました。お昼には子供たちと同じおいしい給食をいただき、あたたかな気持ちで帰途につきました。(大谷)

★ 勉強会 2月3日(日) 13:00~15:00 クラブハウス

今回の勉強会は、E-JAN 理事で浜松市スクールソーシャルワーカーの平川悦子先生をお迎えして「スクールソーシャルワーカーの活動内容と子どもたちの置かれている現状等」という内容でお話しいただきました。参加者は11名。折しも千葉県野田市で小学4年生の女兒が父親の虐待により死亡するという痛ましい事件が起こったばかりで、参加者の関心も高かったように感じました。先生からはまず、スクールソーシャルワーカー(以下SSW)って何する人?という基本的な説明があり、日本、静岡県、そして浜松市におけるSSWの活動状況について語って下さいました。まだまだ馴染みの薄いSSWが実際の学校現場でどのような活動をしているのか、具体的な事例をいくつも紹介して説明して下さったので、とてもわかりやすく理解することができました。SSWとは、子どもに問題行動がある時、それをその子個人の問題と捉えるのではなく、家庭・学校などその子どもを取り巻く「環境」に働きかけて子どもと家庭を支える専門職であることが分かりました。少子化が叫ばれている今、未来を担う大切な子どもたちを虐待やいじめによって失ってはならないとおっしゃった先生の言葉が強く印象に残りました。

すべての人がSSWになれるわけではないけれど、ひとりひとりが今の自分に何かできることがあるのではないかと、みんなで力を出し合えばできることも多いと思います。地域の支援の場を広げるために、私にできることは何だろうか考えていきたいです。(鈴木)

★ お楽しみサロン(フィットネス) 3月3日(日) 13:00~15:00 クラブハウス



バンクシア・フィットネス

ふらたなすの元職員の山田さんを講師に迎え、参加者8名でバンクシア・フィットネスを行いました。


最初に先生からのお話、「ありのままの自分で人と比べない、さっきの自分と行った後の自分を比べる。」でした。

ヨガ、気功、フィットネスを合わせた欲張りなものでした。

わたしは五十肩と膝の打撲があり、みんなと同じように出来なかったけど、腕ははるかに上がるようになり、身体も軽くポカポカ、とても気持ち良かった!

家でお布団に入って、寝る前と起きた時にやる簡単な運動を教わったので続けよう。(高橋)

サポステ・こだま職員が法人内研修を行いました！

	講師:大場義貴 氏(全3回)
	H30年11月16日(金) ・思春期こころのケアガイドブック
	H30年12月7日(金) ・不登校・発達障害・ひきこもり・自殺対策
	H30年12月19日(金) ・演習
	講師:佐々木正和 氏(全2回)
	H31年1月23日(水) ・相談支援 (高・大卒・ASD等、適応できない方対象)
H31年2月22日(金) ・相談支援 (緊急時の対応について)	
《佐々木氏 (相談支援・緊急時の対応について)》	

サポステの利用対象者は15歳から39歳までの無業の方ですが、ここ最近の利用者さんの傾向としては、医療受診をされている方や、発達障害を抱えている方が増えてきているように感じて

いました。職員も日々の相談支援の中で対応や今後について悩むことが多く増えてきていました。

そんな中、法人理事でもあり、聖隷クリストファー大学の准教授・大場義貴氏と、助教授・佐々木正和氏が職員を対象に研修を行ってくれました。

研修はとても分かりやすく、研修後にはそれぞれ職員の個別のケース相談などにも対応していただき、本当に勉強になりました。今後の支援に役立てることができると思います。

就労に不安や悩みを持った方に対して、障害を持っていても、いなくても、一人一人に丁寧な支援ができるように職員一同、スキルを向上し、利用者さんの笑顔が見られるように努力していきます。

サポステはままつ 浜松市中区中央 1-13-3 3F 浜松市若者コミュニティプラザ内 ☎053-453-874

お知らせ

平成31年度は役員改選の年です。正会員の中から平成31・32年度の役員を選出します。

役員は、立候補または推薦により候補者を立て、総会にて承認のうえ、決定します。

会員の皆さまには関係書類を同封しますので、ふるって立候補または推薦をお願いします。



4月	10日(水) 11日(木)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
	14日(日) 21日(日)予備日	お楽しみサロン(ハイキング)	9:00～15:00	フラワーパーク
5月	11日(土)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
	12日(日)	交流会(茶話会)	13:30～16:00	クラブハウス
6月	8日(金)	総会&会員交流会	10:30～13:30	ひだまりのみち・さんぽみち
	11日(月)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
7月	11日(月)	イエローレシートキャンペーンの日	終日	イオン浜松市野店 マックスバリュ浜松助信店
	21日(日)	お楽しみサロン(うたごえタイム)	13:00～15:00	クラブハウス

・お楽しみサロン、交流会の情報は、実施日が近づきましたら E-JAN ホームページでもお知らせします

✿ 事務局より ✿

ご寄附をくださったみなさまへ

ご寄附をくださったみなさまのお気持ちに感謝して、通常総会資料にお名前を掲載させていただきたいと思っております。平成30年4月1日から平成31年3月31日発行の「寄附金受領証明書」の寄附金欄に記載のある方と品物でご寄附下さった方です。匿名を希望される方は、恐れ入りますが4月12日(金)までに事務局へご連絡ください。

未使用の「切手」の寄附

先の通信で未使用切手、はがきの寄附をお願いしましたところ、早速いただきました。

12月末に E-JAN 事務局へ匿名でお送りくださった会員様、13,567円分ありました。ありがとうございました。大切に使用させていただきます。

未使用切手、はがきの寄附はいつでも受け付けています。みなさまどうぞよろしくお願いいたします。

～編集後記～

- ・あっという間に今年度が終わってしまいました。4月からもフレッシュな気持ちで頑張ります。(桜井)
- ・去年の6月から E-JAN でお世話になりましたが、毎日色んな仕事があり、同じ日はなく、気がつく今年度が終わっていました(笑)(佐藤)
- ・通信が発行される頃には桜が咲いているでしょうか。今年は夜桜もいいかなあと話しています。(杉浦)
- ・今年の花粉はものすごい勢力だなどティッシュ片手に悩まされているうちに、気付けば今年度も終わりとなりました。来年度もよろしくお願いいたします。(大畑)
- ・新元号は誰が発表するのでしょうか！？平成は「平成おじさん」こと小渕恵三官房長官でした。時の竹下登総理大臣よりもよくテレビで見ました。最近も。(大谷)